



お馴染みの曲 生演奏に大はしゃぎ

9/14 0歳からのミニコンサート

0歳からのミニコンサートが穂高交流学習センター「みらい」で行われ、サクソフォンとピアノが奏でる「ぼよん行進曲」などのお馴染みの曲に、訪れた100人の親子が笑顔で手拍子を送っていました。

生後6カ月の泰志くんと一緒にコンサートを楽しんだ齋藤美紀さん(豊科)は「普段息子と聞いている曲が多く、楽しめた。音色がとてもきれいで癒された」と話してくれました。

コンサートは、若手音楽家の発表の機会を設けようとは始めて以来4回目。サクソフォンを演奏した月岡穂南さんは「未就園児を対象としたコンサートは初めて。子どもたちの初めての生演奏になれて感動した」と感想を語りました。

奥田瑛二さんが語る熊井映画の世界

9/18 奥田瑛二トークショー・「黒部の太陽」上映会

名誉市民である熊井啓監督の作品上映会が豊科公民館で開かれ、俳優で自身も映画監督を務める奥田瑛二さんが熊井映画を語りました。熊井監督の作品に数多く出演した奥田さんは「生きたいように生き、知力体力すべてを結集して映画作りに臨んでいた。衰えを感じさせない怪物みたいな人」と熊井監督を表現。また、黒部ダム建設場面の撮影エピソードとして、『俺は水のことはどんなことでも分かる、水は怖いだよ』と監督が話したことを紹介し、「撮影の壮絶さを感じながら素晴らしい作品を楽しんでほしい」と締めくくりました。

当日は約350人が来場。松本市から訪れた沖さゆりさんは「心から感動した。50年以上前の映画なのにまったく色あせない。映画を見て、もう一度黒部ダムに行ってみたくなった」と話してくれました。



地元キャンドル作家とコラボイベント

9/24 かじかの里公園キャンドルナイト&ワークショップ

かじかの里公園で9月17日と24日、市内在住のキャンドル作家・佐藤敬子さんを講師にキャンドルづくり体験会と、夜のキャンドルライトアップが行われました。体験会には、小さな子どもから大人まで両日合わせて25人ほどが参加し、好みの色をつけたジュエルキャンドル制作に挑戦しました。

松本市から参加した女性は、「当初描いたイメージどおりとはいかなかったけれど、納得のいく仕上がりになった。お風呂に浸かりながら火の揺らめきを眺め、ゆっくりと楽しみたい」と話してくれました。夜には、佐藤さんが一つ一つ手作りしたキャンドル約120個のやさしい明かりが公園内を包み込みました。

あおぞらの下 年長児が稲刈り体験

9/16 園庭ミニ田んぼ 稲刈り

有明あおぞら認定こども園の年長児41人が、園庭のミニ田んぼで稲刈りを行いました。この田んぼは、園児たちが浸種や田植えなどを行い、ひと夏の間大切に育ててきたもの。当日は、穂高有明地域の農業委員らや市職員に手伝ってもらいながら稲を収穫し、はぜ掛けにしました。

収穫後には、「おこひる」のおにぎりが振る舞われ、食の大切さも学びました。市川優大くん(5歳)は得意そうに刈り取った稲を抱えながら「チャーハンやそばろご飯にして食べたい」と笑顔で話してくれました。太田市長は、園児が種もみから収穫までの一連の作業を行ったことを「大人になっても覚えていてください」とあいさつし、園児と一緒に稲刈りをしました。



手に目をつけろ! 磨け、匠の技

9/16 全国で連続入賞 理容師・尾形烈弥さん

理容師の尾形烈弥さん(21歳・豊科)は、本年度、理容技術を競う全国大会で連続入賞する快挙を成し遂げました。高校時代、同じく理容師である父・淳介さんの逝去がきっかけとなり、理容の道に進むことを決意。学生時代に所属していた野球部で培った探求心や継続力を生かし、研さんを積んでいます。10月17日には秋田県で開かれる全日本理容競技大会に出場。「競技を通じて、自分に足りないものを教えてもらえる。専門学校時代の恩師には『手に目を付けろ』と教わった。少しでも近づけるよう経験を重ねたい」と意気込みを語りました。



サポーターに安曇野の魅力を発信

9/18 松本山雅 F.C ホームタウン PR デー

松本山雅 F.C ホームタウン PR デーがサンプロアルウィンで開催され、試合前に各自治体がブースを出展するなどし、地元をPRしました。安曇野市のブースでは、松本山雅のチームカラーである緑にちなみ、市の特産ワサビのお菓子がもらえるミニゲーム体験ブースを出展。子どもから大人まで、夢中になってゲームに参加していました。また、みずんも応援に駆けつけ、サポーターと一緒に記念撮影を楽しんでいました。

試合は、松本山雅がガイナレ鳥取に2対1で見事勝利。訪れた約7,600人が、J2昇格に向けて熱い声援を送っていました。

